

シリーズ
教員の働き方改革
spin-off 版
号外

学校と教育委員会のパイプ役 公立学校の「指導主事」を紹介します

「教員」ですが「指導主事」でもあります

学校では「教員」、事務局では「指導主事」と呼ばれています。今号では、シリーズでお届けしている「教員の働き方改革」のスピノフ版として、学校の教員でありながらその職務は行わず、教育委員会事務局内（本市では指導室）で、学校教育に係る専門的な事務を執っている「指導主事」にスポットを当て、別の視点から見た「教員の働き方改革」を考えたいと思います。

「教員」は「学校で子どもたちに授業や生活指導を行うことを職務とする公務員」ですが、市区町村教育委員会の事務局にも、「指導主事」という職名で、「公立学校の教員」が配置されています（本市では指導室）。

「指導主事」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、「市町村教育委員会の事務局に指導主事を置く」とされ、市教育委員会の処務規則においても「教諭の身分を持ちながら」教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する」と規定されています。

なお、「指導主事」には所属校がありますが、指導室に配属されているため、正式には一充て指導主事」という名称になっており（以下「指導主事」と表記）、児童・生徒の学習や生活指導等に関わって教員に助言する立場にあり、これまでの教員としての経験に加え、さらに専門的知識を

深めていくことが求められます。

一方、「事務に従事する」ため、多くの指導主事が、学級経営以外の「事務」を初めて経験することになります。文書や資料を作成したり、日々、大量に送信される庁内外からの通知の処理を行うだけではなく、国や東京都、学校や教育委員会以外の市長部局とのやり取り、市内や市外の関係団体などの連絡調整業務が日々途絶えません。

この「指導主事」を統括し、指導や助言をする立場にいたるのが「統括指導主事」で、さらに、指導室全体の3係を統括しているのが「指導室長」（統括指導主事も指導室長も東京都の教員）で、本市には2人の指導主事と、指導室長及び統括指導主事が1人ずつ配置されています（概ね指導主事は4〜5年、指導室長と統括指導主事は3年間在籍）。

市立
学校長に
聞く！



本市や区部で指導主事等を経験され、また、これまで多くの指導主事と関わってこられた2人の

「職業として教員を選んだ理由は何か。いつごろから教職に就くことを意識しましたか」

○岡田校長 小学校6年生の時に「小学校の先生になりたい」と思いました。当時の担任の先生に憧れて、小学校の教員になることに一直線でした。その先生に、「どうしたら小学校の先生になれるのか」と聞いたことも覚えています。出身大学を聞いてその大学に入りたいと思いい、結果、その大学に入学して免許を取得しました。

「同じ大学にまで進もうとするとは、岡田少年の本気度先生も驚かれたと思います。教員経験何年後に指導主事になりましたか」

○岡田校長 教員になって小学校4校を回り、その間、担任や理科専科を経験しました。特例ですが、その後、都庁で道庁行政を研修で1年間経験しました。本市の教育委員会の指導主事になったのは、教員になって17年後のことです。

「指導主事になった直後は市のシステムや関係団体等を知ることから始まりますから、本来の仕事をするまでに時間がかかりますね。事務経験もあるということですが不安はなかったですか」

○岡田校長 不安はありませんでした。指導主事になるのは、「転職した」と言っても過言ではないです。指導主事の仕事量は想像以上に多くて驚きました。

今のうちにメールで各学校に通知文を发出することが少なく、全て紙で印刷してから配布していましたから、東京都からの通知文を各校に配布するだけで半日はかかっていました。前任指導主事（先に就いている指導主事）、統括指導主事、指導室長の決裁後に発出するため時間がかかっていたことが大変だった理由の一つかもしれません。

「指導主事時代に楽しかったこと、苦しかったことは何ですか」

○岡田校長 楽しかったことは出会いが広がったことです。市役所の皆さんとも一緒に仕事をさせてもらう中で、仲良くなりました。今から14年も前のことですが、今でも市役所に行くとき声をかけてくれます。また、他地区の指導主事仲間が増えたことや、各学校の教員との皆さんとも知り合うことができました。

○岡田校長 でも、周囲の人と親しくなれて、さらに仕事も進めやすくなるのは2年目以降ですかね。

「仕事が雨のように降ってくる」と言われましたが、学校も教育委員会もコロナ禍の対応に追われています。働く場所が学校ではありませんが、指導主事の仕事も事務改善を進めていく必要があると思うのですが

○岡田校長 現在は同じく指導主事2人、統括指導主事1人の体制でした。初めは指導主事がどのような仕事をするのか全く分かりませんでした。なので、前任指導主事の存在はとても大きかったです。些細なことでも、前任指導主事に聞いて仕事を進めていました。人間関係がいいことが仕事として成立する要因ですね。

「慣れない上に、当時行政職員のような事務を抱え大変だったと思います。指導室以外の行政職員との関わり合いを持てるようになれば様々な情報交換もできますが」

○岡田校長 でも、周囲の人と親しくなれて、さらに仕事も進めやすくなるのは2年目以降ですかね。



「仕事を雨のように降ってくる」と言われましたが、学校も教育委員会もコロナ禍の対応に追われています。働く場所が学校ではありませんが、指導主事の仕事も事務改善を進めていく必要があると思うのですが

○岡田校長 指導主事の仕事は大変だと思いますが、同時にやりがいがあることも間違いありません。自分が励まされてきた言葉をそのまま声掛けしていましたが、当時はスマホがなかったのでも、「手帳を上手に使えば効率よい仕事ができるよ」ともアドバイスをしていました。仕事の優先順位をつけることがとても大事な職でしたから。

さらに、「家に帰ってもその日の仕事の進捗状況や明日の段取りなど気になることがあっても、遅く帰宅しても、いき、仕事のことはあえて忘れるように。自分が好きなことをするよう自分を仕向けてみると、その日一日をリセットできるよ」と言っていました。

今、こうして先輩風を吹かして話をしていますが、自分も思わず下を向いてしまうような心持ちになることはあります。難しいことですが、気持ちの切り替えは意図的にやらないとできないと思います。

「心に残っているアドバイスはありますか」

（2面に続く）